

研究方法各論 (量的研究法)

[講義] 1年・2年 前期 選択 30時間 2単位

《担当者名》○宮本 雅央 [m-miyamoto@hoku-iryo-u.ac.jp]
高木 由希 [u_uta@hoku-iryo-u.ac.jp]

【概要】

統計調査法の観点から実施される調査手法を概説するとともに、統計的検定の実際について学ぶ。

【学修目標】

1. 量的研究を用いた研究論文を正しく読解できる統計に関する知識を身につけ、クリティークができる。
2. 研究テーマに則した量的研究方法の選択、判断ができる。
3. 量的研究における調査票作成方法の基本を身につける。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 2	量的研究の概要	研究テーマと研究方法の選択 量的研究の種類(記述研究、横断研究、縦断研究、症例対照研究、コホート研究) 量的研究デザイン(疫学研究、介入・実験的研究、尺度開発、多変量解析) リサーチクエスチョン・仮説と量的研究方法	宮本・高木
3) 4	量的研究の概要	量的研究のクリティーク (学生によるプレゼンテーションとディスカッション)	宮本・高木
5) 6	量的研究の実際	調査票のつくり方と変数の設定 回収率を上げる方法 図表の作成方法 有意差の検定(2検定、t検定、一元配置分散分析など)	宮本・高木
7) 8	介入・実験的研究の考え方と活用	介入・実験的研究の例とクリティーク	宮本・高木
9) 10	尺度開発研究の考え方と活用	尺度開発の研究の例とクリティーク (統計的信頼性、妥当性、尺度の構造) 量的研究における尺度の選択と使用方法	宮本・高木
11) 12	多変量解析の考え方と活用	因子分析 重回帰分析 多重ロジスティック分析	宮本・高木
13) 15	調査票作成の実際 [演習]	テーマ、概念枠組み、調査項目の一貫性 調査票の作成方法の実際 (各自がリサーチクエスチョン、概念枠組み、調査票、分析計画を試作しプレゼンテーションする)	宮本・高木

【授業実施形態】

遠隔授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学環、学校の授業実施方針による

【アクティブ・ラーニング】

導入している

【評価方法】

以下を総合して評価する。

- 1 . クリティークの準備・プレゼン、質疑 30% (学習目標1と2の達成)
- 2 . クリティークシートの記入レポート 30% (学習目標1と2の達成)
- 3 . 調査票作成演習の成果レポート 40% (学習目標3の達成)

【教科書】

適宜、資料を提示する。

【参考書】

横山美江編：よくわかる看護研究の進め方・まとめ方, 医歯薬出版株式会社
noa出版：活用事例でわかる！統計リテラシー, noa出版, 2014
noa出版：自ら考える 判断する 行動する 仮説 検証, noa出版, 2013

【学修の準備】

事前に文献等を読み、プレゼンテーションの準備をして講義に臨む。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

< 看護学専攻 >

本科目の内容は、看護学における高度な専門性と研究能力を修得するという看護学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。

< 臨床福祉学専攻 >

本科目の内容は、臨床福祉学における高度な専門性と研究能力を修得するという臨床福祉学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。